

主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・R1年度)

① 基本事項	計画コード	事業名		部名	生活文化部	
	17060	全国高等学校総合体育大会開催事業		課名	文化スポーツ課 国体推進G	
	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実		財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	07:スポーツの推進			款	10:教育費
	施策の方向	04:スポーツ文化の浸透			項	06:保健体育費
戦略プロジェクト	-		目		01:社会体育費	
事業予定期間	H 29 ~ H 30 年度		主な根拠法令要綱等			

② 目的・概要	対象	市民及び全国高等学校総合体育大会関係者	
	目的	平成30年度に三重県を中心に開催される、全国高等学校総合体育大会(東海総体)においてウエイトリフティング競技大会の会場を受け持ち、開催準備及び大会運営を円滑に行うことにより、市民に対しトップレベルのスポーツ競技を身近に感じられる機会を創出し、スポーツ文化の浸透に寄与することを目的とする。	
概要	全国高等学校総合体育大会を円滑に開催するため、平成29年度に亀山市実行委員会を組織し、先催県視察及び大会準備を行い、平成30年度には大会開催に際し、会場設営や物品調達など、円滑な大会運営を行う。 また、市民のウエイトリフティング競技への関心を高めるため、啓発・広報活動を実施する。		

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ○実行委員会等の設立・運営 <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の設立 ・総会、常任委員会等の開催 ・開催方針、事業計画、収支予算の決定 ・開催準備等の検討 ○先催市の視察調査 <ul style="list-style-type: none"> ・先催市概要説明会への出席(南東北総体) ○広報啓発活動(ポスター等作成) 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国高等学校総合体育大会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 種目:ウエイトリフティング 会場:西野公園体育館 ○実行委員会等の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・総会、常任委員会等の開催 ・事業計画、収支予算等の決定 ・運営等について検討(常任委員会) ○広報啓発活動(ポスター等作成) ○後催市向け説明会の実施 		
	年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○実行委員会等の設立・運営 <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の設立 ・総会、常任委員会等の開催 ・開催方針、事業計画、収支予算の決定 ・開催準備等の検討 ○先催市の視察調査 <ul style="list-style-type: none"> ・先催市概要説明会への出席 ○広報啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国高等学校総合体育大会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 種目:ウエイトリフティング 会場:西野公園体育館 ○実行委員会の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・総会の開催 ・事業計画、収支予算の決定 ○広報啓発活動 		
事業の計画・実績	計画額	事業費	1,800千円	13,700千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	1,756千円	13,500千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費 ①	1,756千円	10,313千円	
		国庫支出金			
県支出金					
地方債					
その他					
人件費	総人件費 ②	3,840千円	11,675千円		
	一般職員	3,840千円	11,675千円		
	所要人員	0.50	1.50		
	臨時職員等	0千円	0千円		
	総コスト(①+②)	5,596千円	21,988千円		
受益者負担率	0.0%	0.0%			

			平成29年度	平成30年度	令和元年度
④ 指標	①	名称 実行委員会の設立	計画値	設立	
			実績値	設立	
			単位		
	②	名称 インターハイ来場者数(監督、選手等含む)	計画値		8,000
			実績値		5,000
			単位		人
	③	名称	計画値		
			実績値		
			単位		

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 繰り返し確認を行うなど、関係機関と綿密な連携、調整を行う。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 グループ内で、繰り返し確認を行うほか、関係機関、団体と緊密に連携を図り、スムーズな大会運営を行った。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 競技会の開催及び実行委員会の運営等について、当初計画の通り実施できた。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 競技会の開催及び実行委員会の運営について、当初計画通りの成果を得た。	A 十分な成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 事業実施(競技会開催)が未経験であり、詳細にわたる事象が把握、想定できなかった。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】 平成30年度で事業完了
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 競技会開催の経験を生かし、三重とこわか国体開催に向け、先催事例等を詳細に研究するほか、関係機関等と綿密な調整を行い、全体像を捉えた上で、各取り組みや事業推進を図る必要がある。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 スムーズな大会運営を行うことができる。	
対応時期		令和元年度	

【1次評価者】	生活文化部 文化スポーツ課 国体推進グループリーダー 佐藤 康二
【最終評価者】	生活文化部 文化スポーツ課長 小森 達也

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A			
	成果	A	A			